

P1 環境学習講座の案内
 エコっこスクールレポート
 P2 環境学習講座レポート
 P3 特集 ESDIについて考えよう！
 P4 環境活動団体活動レポート

環境学習講座の案内

今年も一般県民を対象とした秋の自然観察会を山陽小野田市の竜王山と美祢市の秋吉台で実施します。秋空の下を散策しながら秋の山野草を観察してみませんか。

竜王山の自然観察会		秋吉台の植物観察（秋の草花観察）	
日 時	10月11日（土）9：30～15：15	日 時	10月25日（土）10：00～15：00
場 所	きらら交流館及び竜王山周辺 （集合場所：きらら交流館大研修室）	場 所	秋吉台 真名ヶ岳周辺 （集合場所：秋吉台青少年自然の家 駐車場）
定 員	40人程度	定 員	40人程度
参加費	無料（昼食各自）	参加費	無料（弁当持参）
内 容	竜王山とその周辺の自然環境の学習と観察 ・竜王山及びその周辺の四季、自然について ・本山岬、ハマセンダン探訪 ・山野草の観察 ・アサキマダラの観察 等	内 容	野外での植物観察 秋吉台に自生する植物（秋の草花）を、秋吉台エコツアーで自然解説者をされている中沢さん、宮田さん、上田さんの解説で野外観察します。
申込締切	9月26日（金）	申込締切	10月10日（金）



申込・問い合わせ先は環境学習推進センターまで TEL:083-987-1110 FAX:083-987-1720

エコっこスクール2014「山と川の生きもの観察」レポート

開催日 6月29日（日）9:30～15:30

場 所 豊鹿里パーク及びその周辺（周南市鹿野）

参加者 親子13組 33人（子ども18人、大人15人）



3年生以下の小学生を含めた親子でのエコっこスクール「山と川の生きもの観察」を自然豊かな周南市鹿野で実施しました。

午前中は渋川で川の生きもの観察を実施しました。川に棲む生きものの種類やどんな場所にいるのか、採集方法などの説明を聞いて、親子で川に入り、生きもの採集と観察を行いました。大人も子どもも夢中になって、カワムツ、カワヨシノボリなどの魚やカエルやカワエビ、ヤゴ（数種類）、サワガニなどの多くの生きものを採取しました。きれいな水の指標生物のヘビトンボのヤゴやカゲロウ類

も採取することができ、渋川は「きれいな川」と判定されました。

午後からは近くの山野草園で植物観察を実施しました。花の少ない時期でしたが、オオバギボウシ、オカトラノオ、イワタバコ、ミヤコワスレ、キリンソウ、カシワバアジサイなど多くの植物を観察することができました。

参加者からは「川の生きものがいっぱい取れて楽しかった。」「また川で生きものを取ってみたい。」「普段なにげに見ている野草にも興味がわいてきました。」などの感想をいただきました。





環境学習講座レポート

秋吉台の植物観察～初夏の草花観察



開催日 5月24日(土) 10:00～15:00

場所 秋吉台真名ヶ岳周辺(美祿市美東町赤)

参加者 52名

昨年までは午後から半日の植物観察でしたが、今回は朝から秋吉台青少年自然の家駐車場をスタートし、ドリーネ耕作地周辺や真名ヶ岳、帰り水までを1日かけて移動しながらタニキキョウ、ノアザミ、コキンバイザサ、フナバラソウなどいろいろな植物を観察しました。

山焼きから3カ月しかたっていないため、まだ草の背丈も低く、花と草とを同じ高さで見ることができました。秋吉台は地形等の特色があるため、それぞれの場所で植生の違いが見られ、希少種(山口県RDB絶滅危惧種)のムラサキやヤマサギソウなども見ることができ、参加者は興味深そうに観察していました。

参加者からは「草花の実態が理解できてよかった。」「秋吉台の自然を大切に守りたい。」「講師の先生の説明がわかりやすかった」などの意見をいただきました。



ムラサキ

再生可能エネルギーについて考える

昨年同様に再生可能エネルギー関連の工場や施設を見学し、再生可能エネルギーの現状や企業の取組、今後の動向などについて学習しました。

＜第1回＞ 5月29日(木) 参加者 31人

見学場所・内容

- ・(株)ミツウロコ岩国発電所(岩国市)
バイオマス(木くず)専焼の火力発電所の見学
- ・大晃機械工業(株)(平生町)
太陽光発電施設(メガソーラー)の見学
- ・周南市ごみ燃料化施設フェニックス(周南市)
可燃ごみのRDF(ごみ固形燃料)化施設の見学
- ・周南市リサイクルプラザベガサス(周南市)
資源ごみの仕分け工程の見学



＜第2回＞ 6月5日(木) 参加者 32人

見学場所・内容

- ・(株)ジオパワーシステム(美祿市)
地中熱利用システムの説明と体感
- ・長州産業(株)(山陽小野田市)
太陽光発電システムの製造工程
太陽光発電施設(メガソーラー)の見学
- ・(株)アースクリエイティブ(宇部市)
食品廃棄物の飼料化
廃食用油のBDF化施設
廃プラ油化リサイクル施設の見学



参加者からは「興味深い内容の施設ばかりで役に立った。」「資源の活用がいかに大切かわかった。」「改めて環境問題は個人個人で考えていかないといけないと感じた」などの意見をいただきました。

特集「ESD」について考えよう!

2005年から始まった「持続可能な開発のための教育(ESD)の10年」も、今年、最終年を迎え、11月には愛知・名古屋と岡山で「ESDユネスコ世界会議」が開催されます。しかし、開催国日本でのESD認知度はまだまだ低く、普及するにはこれからもESDを推進していく仕組みが必要と考えられます。そこで「ESD」の取組状況等について特集してみました。

ESD(持続可能な開発のための教育)とは?

持続可能な社会づくりの担い手を育む教育です。

環境、貧困、人権、平和、開発といった様々な課題を自らの問題として捉え、一人ひとりが社会の課題と身近な暮らしを結びつけ、未来に向けて考え、学び、話し合うことで、新たな価値観や持続可能な社会を創っていくことを目指す学習のことです。

(ESDはEducation for Sustainable Development の略)



※出典:「ユネスコスクールと持続発展教育」(日本ユネスコ国内委員会)

なぜ「ESD」が必要なのか?

私たち人間は、地球の様々な自然の恩恵を受けて、社会生活を営んできました。しかし、近年の急速な開発とともに、快適な生活を追い求めるあまり、自然環境の破壊や資源の浪費を繰り返してきた結果、地球上には、地球温暖化、野生生物の絶滅、大気や水、土壌の汚染など、地域や地球規模での様々な環境問題が起こっており、

私たちの社会生活は、この地球環境の危機的な状況のもとで持続不可能なものとなってきています。

このような状況を踏まえ、私たちが未来の人類(子孫)のための「持続可能な社会」の実現に向けて、地球環境と人間社会との調和をどう形成していくか、地球規模の視野から考えていかなければならないからです。

ESDに関する世界、日本での取組は?

世界では2002年のヨハネスブルグサミットにおいて「ESDの10年」を日本政府とNGOが共同で提案し、同年の国連総会で採択されました。2003年には国際実施計画が決定され、関係省庁連絡会議も発足しました。

2005年には「ESDの10年」がスタートし、中間年の2009年にはドイツで「ESD世界会合」が開催され、2012年には「国連持続可能な開発会議」(リオ+20)が開催されました。最終年の今年11月には「ESDに関するユネスコ世界会議」が日本で開催されます。

日本では2003年にNPO法人「持続可能な開発のための教育の10年推進会議(ESD-J)」が発足し、2006年には国内実施計画書を決定しました。2008年には行政、NPO、教育機関、企業等の関係者による「ESDの10年円卓会議」がスタートし、小中学校の学習指導要領も改訂されました。

中国地方では岡山市が先進的な取組を実施しており、2005年には「岡山ESD推進協議会」が発足し、同年にはRCE(国連大学認定 ESD 地域拠点)に認定されました。岡山市では学校教科と地域学習を連携させ、ESDの取組を各地域で行っています。

山口県の取組は?

環境学習推進センターでは今年3月に先進的な取組をされている岡山市から講師をお招きして「ESD基礎セミナー」を開催し、環境学習指導者や教育関係者など30名の方が受講されました。



その後、受講された環境学習指導者の方が、今年度、防府市内の小学校の総合学習の時間に樹木をテーマにESDを取り入れた学習講座を実施されています。7月1日に第1回目の講座が行われましたが、これから一年をかけ樹木の学習で終わりにするのではなく、子ども達が公園や街路樹の役割などに疑問を持ち、自ら考え、学習することを目標にされています。

環境活動団体活動レポート！

環境活動団体では環境保全や体験学習など様々な取組や活動を行っています。今回は「ひかりエコメイト」と「NPO法人山口県樹木医会」の活動に参加しましたので紹介します。

ひかりエコメイト

平成15年に創設され、現在会員数は16名。主な活動は自然環境の調査・保全のほか、地域での環境学習会を開催しています。また、学校ボランティアでコミュニティースクールも行っており、里山づくり、地球温暖化防止・省エネ講座、自然観察会なども行っています。

◇6月20日(金)に開催された学校ボランティア「コミュニティースクール」の活動取材しました。



地元の三井小学校の5年生の里山づくりの体験学習で「棚田で田植え」を行いました。最初に里山と棚田の働きについて説明があり、里山は樹木があることで温暖化防止にも役立っていることや、棚田は水をたくわえることによって、地下水のもとになっていること、生きものの棲みかになることなどを学習しました。説明の後、児童たちは棚田で田植えを体験しました。

最初はぬかるんだ土でうまく植えられませんでしたでしたが、すぐに慣れて2アールの田植えは40分ほどで終わりました。田植えを終えた児童から「泥の中は柔らかくて気持ち良かった。」などの感想が聞けました。

その他にも、自然観察会(ギフチョウや海辺の生きもの観察)や地球温暖化防止講座などを開催しています。

連絡先:ひかりエコメイト事務局(藪)0833-72-5058

NPO法人山口県樹木医会

平成10年に設立され、現在会員数は31名。樹木医の知識や技術を通じて、巨木、古木、名木等の文化財をはじめ森林、緑地等の郷土の大切な自然環境の保全を行っています。また、市民と連携した緑の普及や啓発活動を行っており、広く環境の保全に協力しています。

樹木医とは樹木の医者です。樹木医は病気になった樹木を、知識を生かして診断・治療します。樹木は生き物なので人間同様、治療は大変です。樹木医会の主な活動は県内の巨樹、古木、街路樹などの現地診断や治療、県や市町が開催する各セミナーの講師、樹木の保護保全に関する内部研修会、公開樹木医講座の開催などです。

防府市の向島小学校の寒ザクラやの下関市のクスノキの治療などはニュース等で取り上げられましたのご存じの方も多いと思います。

当センターではエコっこスクール等の環境学習講座において樹木医の方を講師に、地球環境と樹木についてなどを学習しています。樹木の役割や葉っぱの構造や形などについて、わかりやすく説明いただき大変好評です。機会がありましたら是非受講ください。

連絡先:NPO法人山口県樹木医会 0835-23-3648



<編集後記>新年度がスタートし新たな講座をいくつか実施しました。各講座とも参加希望者が多く、やむなく抽選しましたが抽選に外れた方には本当にすみませんでした。またいろいろな講座を企画しますのでぜひご参加ください。お待ちしております。(藤井)

発行元 (公財)山口県ひとづくり財団 県民学習部 環境学習推進センター
〒754-0893 山口市秋穂二島1062 (山口県セミナーパーク内)
TEL 083-987-1110 FAX 083-987-1720
URL <http://eco.pref.yamaguchi.lg.jp/learning/>